1　「社会参加」について（社会教育委員からのコメント）

（五十音順・敬称略）

自己決定、自己責任が叫ばれ、多くの人々と一緒に暮らす現実が見えづらくなっているように感じます。必要以上に不安が煽られ、無理に特定の集団へ同化させようとする動きも出ています。素朴ではありますが、そんな今こそ、日頃の生活をあと少し他の人々へと広げること＝社会参加が求められるのではないでしょうか？参加が難しい人々に十分に配慮しつつ、あと少し生活を広げることで、他人に優しくなれる社会をと願っています。

【渥美公秀】

「社会参加」などというと何かしらとっつきにくい感じだが、たとえば「自分の世界を広げること」と捉えてみてはどうだろうか。ある「仕事人間」のお父さんが、ふとしたことをきっかけに「おやじの会」に誘われ、地域活動にデビューする。「地域」という新たな「社会」に参加することによって、このお父さんは、家庭や職場とは一味違う人間関係のおもしろさを味わい、日々の生活をより豊かなものにすることができるのである。

【岩槻知也】

私たちの周囲には、振り込め詐欺や催眠商法、親切を売り物にした詐欺行為など、「つながる」楽しみや希望を打ち砕き不信感を増長させるものがあふれています。住民どうしが折にふれ顔を合わせ声をかけ合って信頼関係を確立し、安心安全の地域づくりを進めることが急がれます。「こんにちは」の挨拶の次に相手の心に届くような「追加のひとこと」を、まずは年長者（おとな）から、率先して意識的に知恵を絞って創り出していきましょう。

【岩堂美智子】

「皆が楽しく生きる」。「皆が、誰かのために何かをしてあげたい」と心から思い行動する。「できることをできる人がやる」。自分達の街が「こうなればいいな」と思い続ける。「力強い人がその力の範囲で守ってあげないといけない人を守る」「大きなことではなく、小さなことを長く数多く続ける」「自分のため、家族のため、友のため、お隣のため、社会のため」と思う優しい心が社会参加だと思います。笑顔とともに、声かけあって。

【大友眞理子】

社会参加の方法が、従来の人と人との出会いから、インターネットの利用、双方向テレビ、携帯電話、テレビ会議等多様化してきた現在、あらゆる手段が想定されます。それぞれ得失を有しており、目的に合致した手段を選べば、従来無かった新しい社会参加の形態も構築され、これまで無関心であった人の社会参加も期待できます。現実にふれあいの場での交流が望ましいですが、これに入り難い人のインターネット等活用による社会参加の方法も推進していくことは、地域活性化の有効な手段として期待されます。

【加藤　進】

社会参加をすれば、様々な体験ができることが分っていても、それに伴うわずらわしいことを予測して、社会参加を躊躇する人がいます。しかし、わずらわしいことを避けている限りは、すばらしい人との繋がりも期待できないのではないでしょうか。わずらわしいことを乗り越えた時に、実感できるすばらしい連帯感を一人でも多くの方に体験していただくことを願っています。

【蒲池冨美子】

最近子どもたちの自然体験や生活体験が減ってきている。そして、自然体験や生活体験が少ない子ども程、道徳的な規範意識が低いともいわれている。このような体験は、子どもたちの社会参加の始まりであり、意義深いことである。家庭でも、学校でも様々な機会をとらえて地域の人とのふれあいを数多く体験させることにより、子どもたちは、将来積極的に楽しく社会参加ができる人に育つであろう。

【川島秀臣】

日本の女性の社会参加の源流は、１９１１（明治４４）年、平塚らいてうらによる青鞜運動にたどり着く。平塚氏の「元始、女性は太陽であった」に始まる巻頭言は有名である。１９７５年の国際婦人年では「男女の平等と女性の社会参加」が国際的に謳われ、日本でも「女性の自立と社会参加」を目的にした女性関連施設が全国的に建立された。２１世紀になり、確かに女性の社会参加をする風景は変わった。しかし、男女共同参画社会がさらに進むためには女性の社会参加から一歩進んだ社会参画が求められている。

【田上時子】

私たちは社会の現状を踏まえ、より豊かで幸せな生活を求めています。地域では安全で安心して暮らせるまちづくり、そして豊かな環境づくりをめざして様々な運動や活動が展開されています。個人が豊かな生活を営むためにも、社会に意識を向け家庭から一歩前へ踏み出し、その活動に自分ができる身近な事から仲間に加わり参加する事、それぞれの立場で大切な役割がある事を知り、ひとりでも多くの人とつながり協働する事が社会参加であると思う。

【田中夏美】

最近ではどこでも取り組まれるようになった人材バンクは、地域の人々を登録して、教育や福祉などさまざまな場面で活用されています。今回提案している「道具箱」は、人びとが持っている智恵やコツの登録活用システムです。社会参加というと、何かたいそうなことのように思えるかもしれませんが、直接出向かなくても、ちょっとした智恵やコツを提供したり、「道具箱」を覗いてみるのも社会参加の一歩ですね。

【中島智子】

市民一人ひとりが自らの意思で主体的に社会に参加することは、『誰もが人としてあたり前に暮らしていくことができる、人間性豊かな社会』を創出するために重要な意味があります。既存の制度的な枠組みに期待するだけの「おまかせ主義」ではなく、一人ひとりが自分らしさを大切にしながらさまざまな場面で「参画的参加」をしていくこと、そして、それが実現できることこそが真の民主主義の実践であり、多様な他者との「共生」と「共育」に不可欠だと思います。気負わず、自分の周りを見ることから参加をしてみてください。

【名賀　亨】

日本はいつの間にか、お互いが他人を過剰に恐れる国になってしまったという気がします。しかし一方で、もし人が一緒の空間で心の隔てなく、ただ居あわせることができるならば、それだけでやがて視線が交差し、対話が生まれてくるものです。人と人とが、ある時にはくつろいで、ある時にはわくわくしながら居あわせることができる場を、丹念に作りながら次につないでゆくこと。そこにこれからの社会参加の礎石になってゆくイメージの一つがあるという気がします。

【名越康文】

何でも一人でやりきらなければとか、人に迷惑をかけてはいけないと頑張りすぎたり、人と関わると面倒だからと思っていると、家に閉じこもってしまいがちです。誰もが社会で生きているのに社会とつながらない生き方をしている人には、ぜひ、人とつながるために一歩を踏み出してほしいと思います。人とつながると「助けて」と言える仲間が増え、とても生きやすくなります。頑張らずに「助けて」といえる関係が作れるといいですね。

【新田良子】

「社会参加」と一言でいうと堅くまじめのイメージがある。その為、青年層で言えばなかなか参加しづらい状況である。青年団では、様々な取組みを企画し、「この企画なら僕できるんちゃうかな」「それなら私やれる」といった、参加者が「できるんちゃうかな」と思うものに取り組んでいます。身近な事、本人のやるきを引き出すいろいろなステージを提供することが必要でないかと思う。青年団は、子どもと大人、地域社会をつなぐ団体として、今後も創意工夫した活動に取り組みたい。

【東・真佐彦】

我々成人の役割は目標を達成しようとする青少年を援助することである。一言で青少年といっても年齢幅があり、その年齢に適した教育がなされるのは当然である。青少年を対象にした社会教育活動はその目的、原理、方法に従って自発的に行われ、出生、人種、信条、宗教等の区別なくすべてに開かれていなければならない。またその基本的な行動や考え方の指針は、差別しないことが原則であり、この原則を守ることは青少年にとっても、彼らを援助する成人にとっても、社会参加における一番大事な事柄である。

【別所俊顕】

社会教育での社会参加は、特定の対象者もなく具体的な目標もないただ漠然とした形態をさす場合が多い。そこで重要なのが、「あと少し・その一歩・もう一つ」といった今以上の広がりを含んでいることである。その広がりを期待して、社会教育関係団体は様々なキッカケづくりをし、シカケを考え、事業を展開している。「社会参加していますか」との問い掛けは愚問であり、質問するなら「新しい事・物・人を見つけましたか」と聞くのがいいのかもしれない。

【明貝一平】

子どものいる人々への働きかけは、学校・ＰＴＡ・地域の取組みの中で、「もう一声かけ」をさらに進めていけたらと思う。若い時、地域の人々とつながりをもてたら、また、将来、地域の活動へ参加する機会もでてくる。今、退職を迎える多様なスキルをもった「団塊の世代」への働きかけが必要。教育コミュニティだけでなく、人権・安全・環境等々ＮＰＯも含めた地域の情報を広報誌やＩＴを活用する等、工夫し、届けていけたらと思う。

【横川万寿美】

2　各調査結果の概要等

A. フォーカス・グループ・インタビュー調査

（大阪大学中村安秀研究室作成、一部改変）

1　活動を始めたきっかけ

	活動の中心となっている人	活動の周辺にいる人
豊中市	・身近な人に誘われて、やってもいいかなと思って ・子どものおかげ ・次の世代へのお返しがしたくて	・じゃんけんに負けた ・誘われた ・「あの人に」頼まれて嫌と言えなかった ・キーパーソンに共鳴した ・祭りで子どもの付き添いをした
田尻町	・子どもがきっかけ ・ほっとけないということから入った	・「あの人に」頼まれて嫌と言えなかった

2　活動から得られたもの

	活動の中心となっている人	活動の周辺にいる人
豊中市	・地域の人と知り合いになった ・ネットワーク ・勉強になった ・感動	・地域の人とつながり連携が早くなる ・様々な人に会って話ができる ・学校と地域のつながりができた
田尻町	・子どもたちと知り合えた喜び ・周囲の協力	・人とのつながり ・学校や子どものことを知ることができた ・地域になじめた ・形のないものが返ってくる ・楽しい

3　活動に伴う困難

	活動の中心となっている人	活動の周辺にいる人
豊中市	・プライベートタイムがない ・小さい子どもがいると大変 ・家事をおろそかにできない	・仕事をすると時間がない ・商売をしていると土・日は抜けられない ・子どもが小さいと夜の活動ができない ・どこで何をやっているかの情報が入ってこない ・親の介護で活動できなくなった ・子どもがいないと参加のきっかけがない ・参加するのは同じ顔ぶれ ・若い人が少ない
田尻町	・活動資金がない ・次世代育成の方法が分からない ・自分でしないといけないことが多く息切れする	・活動に参加するのは同じような顔ぶれ ・人を誘うことが難しい ・若い子は興味がない ・時間的な制約 ・男性ボランティアが少ない ・女の人とのつき合いに気をつかう ・自主的に参加する人を軽視する傾向がある

4 情報提供の方法

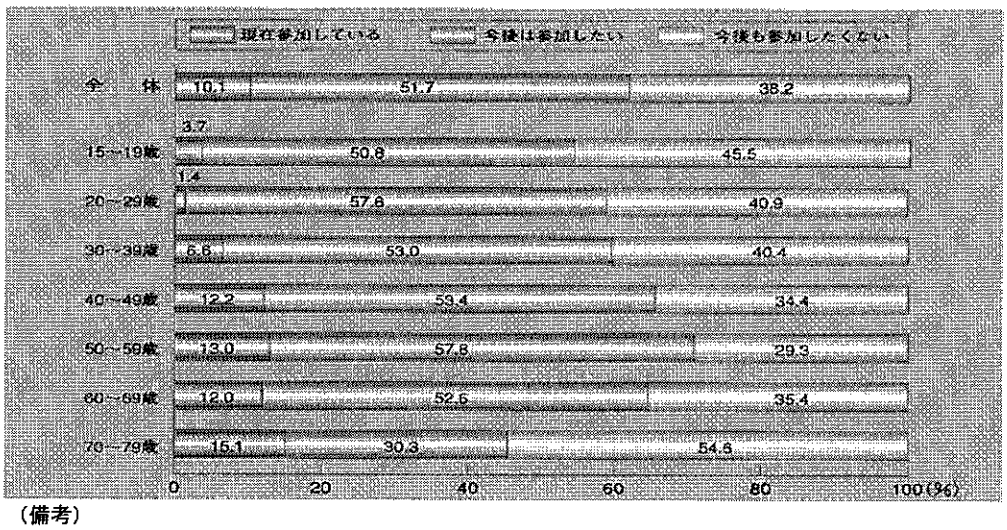
	活動の中心となっている人	活動の周辺にいる人
豊中市	・広報・回覧板 ・健診や予防接種会場でのアピール ・人と人とのコミュニケーション ・インターネット	・携帯電話からインターネットにアクセス
田尻町	・情報の全戸配布	・広報に載せる ・活動開始直前の告知・チラシ ・大々的に宣伝する ・学校や幼稚園からの手紙 ・インターネット ・子どもの友達の母親と話す

5 社会参加活動を広げる工夫

	活動の中心となっている人	活動の周辺にいる人
豊中市	・参加しやすいのは土・日 ・平日丸一日の活動は避ける ・行政が立ち上げるとしばりがある ・地域性に配慮する ・若い人に場所を提供する ・学校の参観日に父親に呼びかける ・一緒に参加する人の存在 ・一つの役を複数で分担する	・アドバイスやサポートしてくれる人の存在 ・総合的な相談窓口の設置 ・土・日限定の活動 ・橋渡し的な人の存在 ・高齢者や子育ての終わった人に参加してもらう ・日頃からのつき合い ・自治会活動を活発に行う ・硬い話と柔らかい話(祭など)を組み合わせる ・地域の行事を継承する
田尻町	・小さい集まりで接点をつくる ・子どもを介して大人を巻き込む ・世代交代を考える ・リーダーが地域性を把握する	・複数の活動を連動させ、一つのことをする ・半強制的でも参加させる ・参加しないことが恥ずかしいというシステムを作る ・子どもと一緒に参加できる活動 ・気軽に参加できる、楽しい活動の設定 ・知っている人、誘ってくれる人の存在 ・組織だった活動を行う ・府や町からの提案

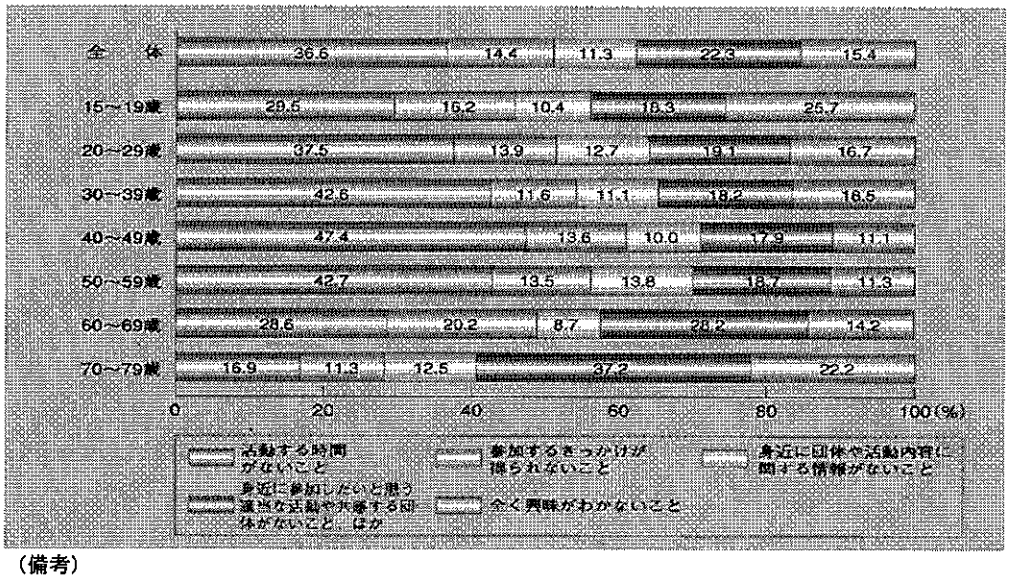
C. 平成16年版国民生活白書
～人のつながりが変える暮らしと地域―新しい「公共」への道～ （内閣府） より

第３－１－２図　地域の活動に現在参加している人の割合は約１割



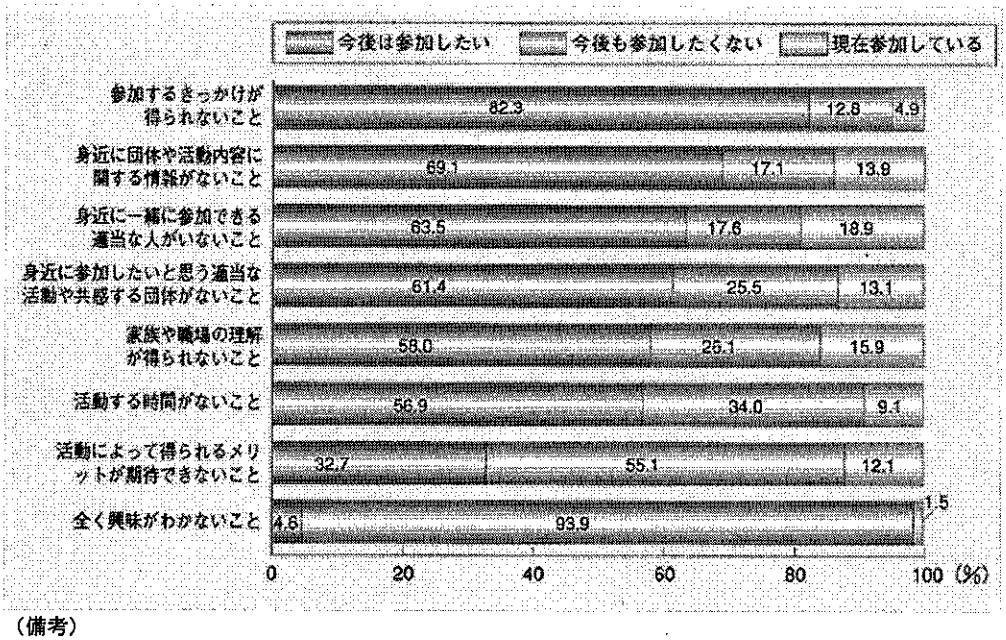
（備考）
1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2004 年)により作成。
2. 「あなたはNPOやボランティア、地域の活動などに参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。あてはまるもの1つに○をお付けください。」という問に対して回答した人の割合。
3. 「現在参加している」は、「現在、積極的に参加している」、「現在、お付き合いで参加している」と回答した人の割合。「今後は参加したい」は、「過去に参加したことがあり、また参加したい」、「これまで参加したことはないが、今後は是非参加したい」、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人の割合。「今後も参加したくない」は、「過去に参加したことがあるが、もう参加したくない」、「これまで参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と回答した人の割合。
4. 回答した人は、全国の 15～79 歳の男女 3, 896 人。

第３－１－３図　地域の活動などへの参加の阻害要因は活動する時間がないこと



（備考）
1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2004 年)により作成。
2. 「NPOやボランティア、地域での活動に参加する際に苦労すること、または参加できない要因となることはどんなことですか。あなたにとってあてはまるもの1つに○をお付けください。（○は1つ）」という問に対して回答した人の割合。
3. 「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと、ほか」は、「身近に参加したいと思う適当な活動や共感する団体がないこと」のほか、「身近に一緒に参加できる適当な人がいないこと」、「活動によって得られるメリットが期待できないこと」、「家族や職場の理解が得られないこと」、「その他」を含む。
4. 回答した人は、全国の 15～79 歳の男女 3, 834 人。

付図３－１－２　地域の活動への参加を妨げる要因と活動への参加



（備考）

1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2004 年)により作成。
2. 「あなたはNPOやボランティア、地域の活動などに参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。あてはまるものに1つ○をお付けください。(○は一つ)」という問に対し回答した人について、「NPOやボランティア、地域での活動に参加する際に苦労すること、または参加できない要因となることはどんなことですか。あなたにとってあてはまるものに○をお付けください。(○は1つ)」という問に対して回答した人の割合。
3. 「今後は参加したい」は、「過去に参加したことがあり、また参加したい」、「これまで参加したことはないが、今後は是非参加したい」、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」と回答した人の割合。「今後も参加したくない」は、「過去に参加したことがあるが、もう参加したくない」、「これまで参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と回答した人の割合。「現在参加している」は、「現在、積極的に参加している」、「現在、お付き合いで参加している」と回答した人の割合。
4. 回答した人は、全国の 15～79 歳の男女 3, 896 人。

3　大阪府社会教育委員会議における協議の経過

年度	開催日	会議名	協議内容
16	3月23日	平成16年度 第3回 社会教育委員会議	○審議題について ○検討委員会の設置について
17	6月 3日	第1回検討委員会	○「社会参加」とは
	8月23日	第2回検討委員会	○「対象・キーワード」「参加形態」について
	10月28日	第3回検討委員会	○事例報告・整理
	12月 9日	平成17年度 第1回 社会教育委員会議	○検討委員会の協議のまとめについて
	12月21日	第4回検討委員会	○第1回社会教育委員会議を受けて
	1月26日	第5回検討委員会	○「もくじ(案)」「具体的な方向性」について
	3月23日	平成17年度 第2回 社会教育委員会議	○検討委員会の協議のまとめについて
18	9月29日	第1回検討委員会	○「これまでの論点の整理」「事例調査から出た参加促進要因」について
	12月25日	第2回検討委員会	○「つなぐ・仲介機能」「社会教育行政のあり方」について
	1月16日	第3回検討委員会	○中間まとめ(案)について
	1月24日	平成18年度 第1回 社会教育委員会議	○中間まとめについて
	2月 9日	第4回検討委員会	○最終まとめ(案)について
	3月16日	第5回検討委員会	○提言(案)について
	3月22日	平成18年度 第2回 社会教育委員会議	○提言について

4　大阪府社会教育委員名簿

議　長　岩堂 美智子
副議長　中 島　智 子

名　　前	役　　職　　名
渥 美　公 秀	大阪大学コミュニケーションデザインセンター助教授
岩 槻　知 也	京都女子大学短期大学部助教授
岩 堂 美智子	相愛大学教授
大 友 眞理子	株式会社パソナ執行役員
加 藤　　進	西部電気工業株式会社担当課長
蒲 池 冨美子	(社)ガールスカウト日本連盟大阪府支部前支部長
川 島　秀 臣	阪南市立西鳥取小学校校長
田 上　時 子	NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西理事長
田 中　夏 美	大阪府地域婦人団体協議会副会長兼青少年部会長
中 島　智 子	プール学院大学教授
名 賀　　亨	大阪ボランティア協会事務局常任運営委員
名 越　康 文	精神科医
新 田　良 子	大阪府 PTA 協議会事務局次長
東 野 真佐彦	大阪府青年団協議会参与
別 所　俊 顕	日本ボーイスカウト大阪連盟前理事長
明 貝　一 平	大阪府地域コーディネーター連絡協議会前会長
横 川 万寿美	日本労働組合総連合会大阪府連合会女性委員会委員長

平成19年3月末現在

検討委員名簿

委員長　中 島　智 子

名　　前	役　　職　　名
渥 美　公 秀	大阪大学コミュニケーションデザインセンター助教授
岩 槻　知 也	京都女子大学短期大学部助教授
大 友 眞理子	株式会社パソナ執行役員
中 島　智 子	プール学院大学教授
明 貝　一 平	大阪府地域コーディネーター連絡協議会前会長

平成19年3月末現在